道明寺

道明寺は日本でまだ運営されている数少ない尼寺のひとつだ。境内には手入れの行き届いた石庭と 1000 年前に作られた観音立像がある。

観音立像は道明寺の中心的な崇拜の対象だ。後に神道の学問の神様、天神様となった学者で詩人でもある菅原道真（845 年 - 903 年）作だと言われている。立像は高さ約 1 メートルで、1 片のヒノキから作られている。10 種類の観音の顔が入った冠を被った観音像は、蓮の花の上に立っておられる。各顔は菩薩になるまでの段階を表わしている。10 のうちとりわけ阿弥陀仏の顔は、完全に悟りの状態にある。観音像の御開帳は毎月 18 日と 25 日だ。

後に神道の神として祀られることになる菅原道真が有名な仏像を作ったというのは奇妙に思える。しかし、6 世紀に朝鮮半島から日本に紹介された仏教は、19 世紀の終わりまで、神道と区別されていなかった。神道の神は仏教の神であり、仏教の神は神道の神の化身だと考えられていた。実は道明寺の建造物のいくつかは、1868 年の神仏分離令により近くの道明寺天満宮から移されたものだ。